

全国大学造形美術教育教員養成協議会メールマガジン 2024.12.1 第87号(毎月1日発行)

「らくがきのすすめ-楽しいお絵かき、みんなでお絵かき-」

日本福祉大学 教育・心理学部学校教育学科
教授 松下 明生



1. お絵かきは好きですか？



図1. みんなで落書き作戦(於:美浜町立奥田小学校 トワイライトスクール 2022/9)

絵を描く事が好きな人と、苦手な人がいて、それはだいたいはっきりとわかります。私の本務校に入学してくる学生さんたちは、多くが「お絵かき」をすることに抵抗があって、「さて今日はお絵かきしましょう！」と提案すると、教壇から見える学生さんたちの表情が崩壊

して、私は毎年それこそ笑いをこらえるのに必死になります。それくらい「絵を描く事が苦手なのか」ということがわかります。悲しいかな、絵を描いてきた記憶がほとんどないとか、遠い記憶のかなた（小学校）に描いたけど、いい思い出がないとか・・・、そういうマイナス経験として大学生になっています。

幼児から始まる造形教育で、どうしてこうなったのか、これが義務教育の成果なのかと残念至極な思いで過ごしています。図 1. は小学校 4 年から 6 年までが放課後に集合して、先生方の車は駐車場から移動してもらい、巨大なキャンバスに思いっきり描いた大



図 2. 泥てっぽうで大画面に打て！（於：奥田小学校 2022/11）

作です。描いている最中は自分のテリトリーしか視界になかったのに、活動後に 3 階に上がってみると、あらビックリ！です。先生方やお迎えの保護者の皆さんも描きたくって一緒に描いた自分の絵が、みんなと一緒にあって大きな作品になりました。図 2. は、泥と絵の具を混ぜて、容器に入れて飛ばしてみると、立てた段ボールキャンバスに、泥が垂れながら作品になっていく共同制作の面白さに熱中し、床も自分の手も絵の具まみれになりました。現代美術作家になった気分です。活動後のみんなは、放心状態でした。子どもはみんな、お絵かきが好きなことも見えるし、大人も過去の自分を思い出しての大喜びでした。

2. そもそもお絵かきって何でしょうか？

人はなぜ絵を描くのか？という命題は、どんな本を読んでも論文を検索しても、未だによくわからないのですが、乳幼児から児童期の子どもと一緒に絵かきをすると、絵かきすることに理由が必要なのか、悩む時間が無駄だと思うくらい、自らどんどんと描き進めるのです。でも、描かない子を見ると、描きたくても描く事ができない理由があることも知っ

ています。文献では10才児頃から、ギャングエイジとか自己批判に長けて自分の絵が嫌いになっていくと、それはまるで子どもがお絵かきを嫌いになることを肯定しているかの如く、そうかそうかと納得してみたりもします。でも指導者があきらめてしまっはもともこないのかなと考えています。



図3. みんなで落書きしましょ



図4. 大きなくまさんの顔(於:浜松学院大学短期大学部 2011/7)

図3.と図4.は、オープンキャンパスの日に、幼児から児童、高校生や地域の人達がどんどん集まって、みんなで落書きをしました。暑かったのですが、いい思い出になったのでは



図5. みんなで落書きしましょ



図6. 大きなお花になりました(於:名古屋柳城短期大学 2015/4)

ないでしょうか。図5.と図6.は、名古屋市街にあるキャンパスで親子みんなが落書きをしました。5階から見た落書きは、大きなお花になっています。そして自分の描いた落書きは視認できて、自分はそこにいるよ！と達成感と安心感が溢れて、一斉に歓声が起こったもの

です。感動は画像としてみんなの記憶に残り、人と人との営みの喜びがここに 있습니다。

3. みんなで描くということはどういうこと？

自分が描くときは、手が届く範囲で何を描くのか、どういうふうになんをを使って描こうかと悩むことがあります。途中で嫌になって違うモチーフに移行して新たにどんどん描くことができるのが落書きです。失敗しても、その横の今さっき描いた絵を気にせず、心に思いつく、心のトレースを可視化するように再現する、それ自体が楽しいのでしょうか。あーでもないこーでもないとブツブツ小言を言いながら。



図 6. 椎橋さんの戦隊ロボ



図 7. ロボはロボでできている



図8. スターバックス店内で展示

図 6.は、半田市教育委員会主催で、社会福祉法人ダブルエッジジェーによる開催のオールブリュット展のサテライトとして、2024/10月に実施した一連の活動です。まず、利用者：椎橋さんが生前に好きで描いた数百のロボットや戦隊ヒーロー（図 6.）とのコラボで、大学ゼミ生が考えてアクションを起こします。これらのロボットを組み合わせるロボットにする計画を実行しました。（図 7.）みんなでコラボして、まるで絵本「スイミー」（レオ・レオニ）好学社のように、椎橋さんの絵の集合体で出来たロボットは、半田市内のスターバックス 2 店舗に展示させて頂きました。（図 8.）自分たちが描いてはいないけれども、沢山のカードを構成しカタチを組み立てることもお絵かきの範疇です。そして、自分が置いたカードの位置も視認し、作品展示へ、みんなで行き鑑賞することができました。自分がすることと他

者の行為が合体した作品を鑑賞することができました。図 9.は新年度にゼミ生が、それぞれ



図 9. ゼミのみんなで共同制作



図 10. ゼミのイメージを絵にして表して完成



図 11. 仲良くペアで描いてみた



図 12. 幼児から大人までガラス絵の共同作品

れ順番に隙間なく描きこむ共同制作で、図 10.では仲良く完成のポーズとなりました。図 11.12.はアールブリュット展と同催(図 6.~8.)の半田市雁宿ホールで造形ワークショップを行いました。絵を描くのは自分自身だけれども、作品はみんなの絵の中であって、その中に存在する自分を感じ得ます。描く喜び、他者と並ぶ喜び、そして鑑賞は自分の描いた部分を探し発見して、自分自身の存在を認識して改めて喜びを受け止めることとなります。

4. こんなに楽しく面白い、落書きって自由簡単！

いくつになっても落書きは楽しいし、お絵かきはその人の何かを見つけてくれる喜び発見のツールだと信じています。誰でも何処でも何にでも描いてみよー！(怒られないようにね)